

鋼製ドラムの 取扱上の注意

ここに示している注意事項は**鋼製ドラム**を正しくお使い頂き
充填内容物の保護と取り扱う人への危害や損害を
未然に防止するためのものです。



鋼製タイトヘッドドラム
(JIS Z 1601)



鋼製オープンヘッドドラム
(JIS Z 1600)

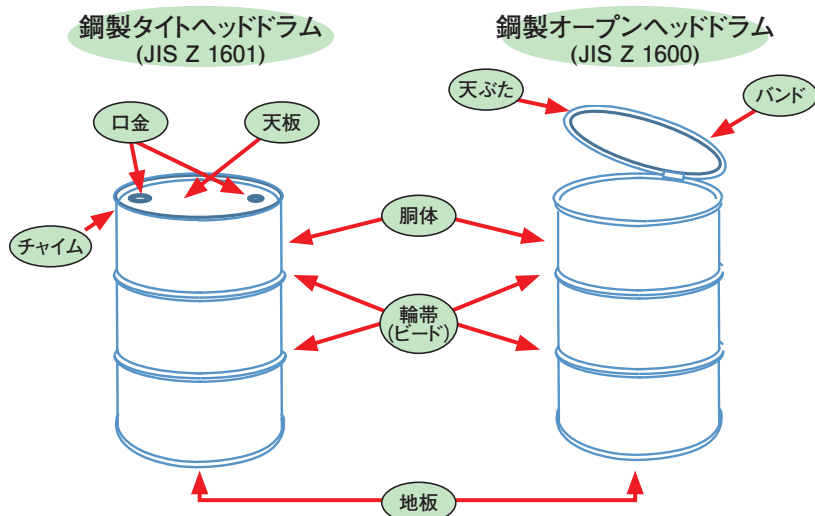


ドラム缶工業会

ここに示している注意事項は、鋼製ドラムを正しくお使い頂き、
 充填内容物の保護と取り扱う人への危害や損害を未然に防止するためのものです。

ドラム 部位名称

- ・寸法については、JIS Z 1601、JIS Z 1600を参照して下さい。
- ・口金については、JIS Z 1604を参照して下さい。
- ※以下に示している注意事項で、鋼製タイトヘッドドラムと鋼製オープンヘッドドラムの両方をさす場合は、ドラムと表記します。



1. ドラムの選定

- 1 内容物の性状に合ったドラムを使用して下さい。
 内容物によっては、ドラムを腐食させたり、内容物の変色したりすることがあります。新規の内容物や、添加物を変更した内容物を充填してドラムを使用する時は、ドラムメーカーにお問合せ下さい。

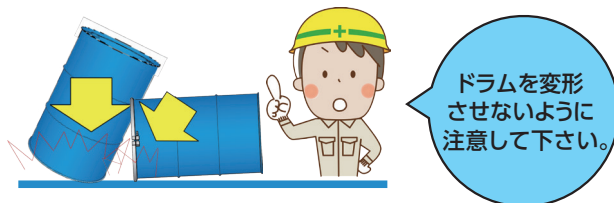


2. 基本要件

- 1 ドラムは圧力容器ではありませんので、圧力をかけての使用は行わないで下さい。圧力をかけると、破裂または変形することがあります。

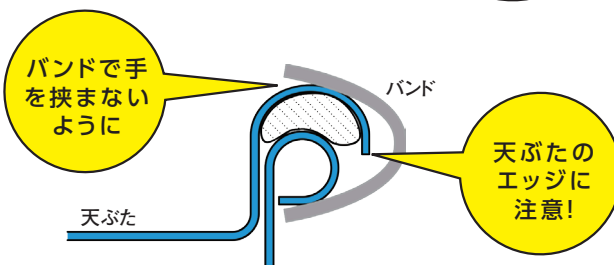
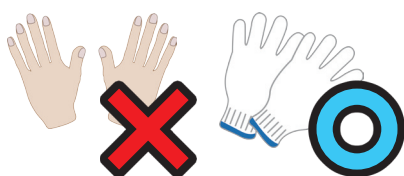


- 4 ドラムの巻締部を落下や外部からの衝撃により変形させると、内容物が漏れることがあります。また、鋼製オープンヘッドドラムの天ぶたとカール部を変形させた場合、内容物が漏れることがあります。取扱には十分注意して下さい。



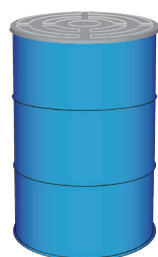
- 2 ドラムは内容物の充填保管、運搬以外の使用は行わないで下さい。

- 3 ドラムの取扱には保護手袋を使用して下さい。



3. 充填前の保管

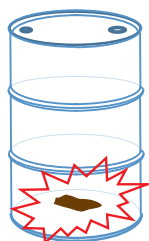
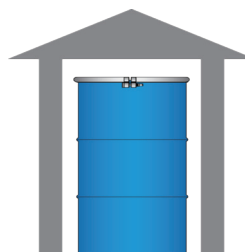
- 1 鋼製タイトヘッドドラムは原則として屋内に保管して下さい。屋外の場合、口金から雨水を吸い込むことがあります。やむをえず屋外に保管する場合は、天板にドラムキャップを被せるか、地面に水溜りがないところに、天板を下に向けて保管して下さい。
- 鋼製オープンヘッドドラムについては、必ず屋内保管をして下さい。屋外に保管すると、天ふたガスケット部分より雨水を吸い込むことがあります。



ドラムキャップ等で水の吸入を防いで下さい。



オープンヘッドドラムは屋内保管で

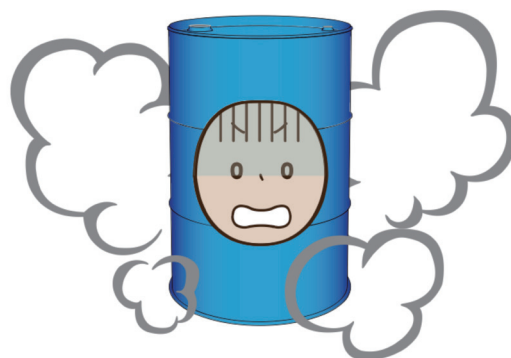


ご理解の上
ご使用下さい。

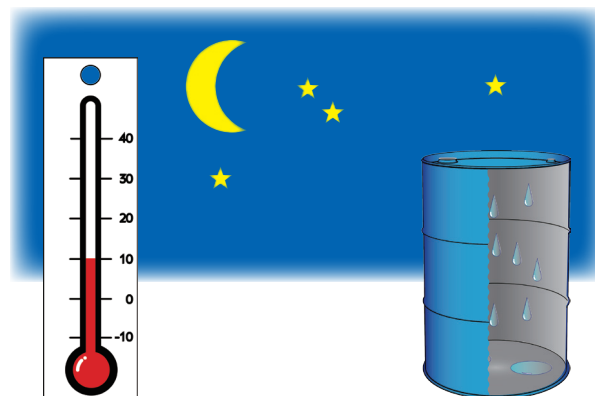
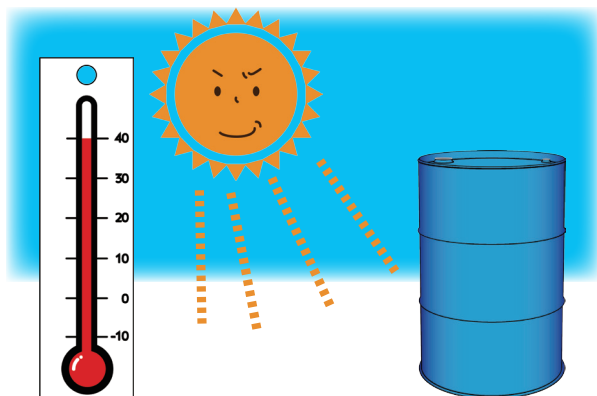


ドラムの表面処理（リン酸亜鉛、リン酸鉄）は耐錆性を目的としたものではなく、短期間の一次防錆と塗膜密着性を目的としたものですので、水分が付着すると錆が発生することがあります。

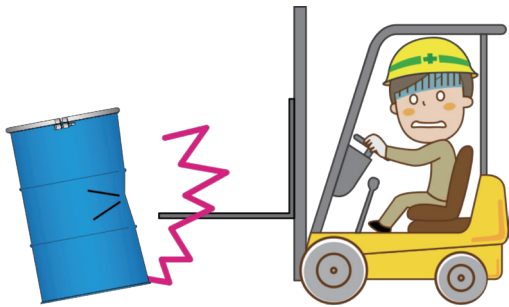
- 2 高温多湿や、酸や塩分等の腐食性のある環境での保管は、ドラムの劣化を早めるおそれがあります。



- 3 目安として鋼製タイトヘッドドラムは納入1か月以内、鋼製オープンヘッドドラムは納入1週間以内でのご使用をお願い致します。特に温度差が大きい場所に保管した場合、ドラム缶内に結露し、内面に錆が発生することがあります。



- 4 充填時以外にプラグまたは天ぶたを開けるとドラム内に異物が入り汚染したり、水分が入り結露して錆が発生することがあります。



取扱いには十分お気をつけ下さい。



- 5 内面塗装ドラムの場合は、変形にご注意下さい。変形の度合いによっては内面塗膜が剥離することがあります。

- 6 保管は原則とし縦積みとして下さい。俵積（横積）で保管する場合は、適切な転がり止めを使用して下さい。



ドラムの横転がしで巻締部やビードが傷つき、錆びることがあります。



- 7 ドラムを地面上で転がすと外面塗膜が剥離し錆が発生することがありますので、ご注意下さい。

4. 充填

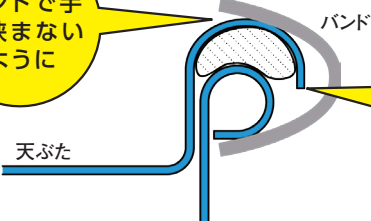
- 1 開栓時に天板に埃や水滴があると、口金から内部に吸引されることがありますので、プラグを開ける前に、天板上の埃や水分を拭き取って下さい。オープンバンドや天ぶたの取り外し及び取り付け時には、金属端部で手を傷つけたり挟まれないように注意して下さい。

- 2 プラグの開閉は、専用の器具を使用して下さい。内容物の温度や外気の寒暖差により、プラグが緩むことがあります。適切な締め付けトルク値につきましては、ドラムメーカーにお問い合わせ下さい。



天板上の埃や水滴を拭き取ってから開栓しましょう。

バンドで手を挟まないように

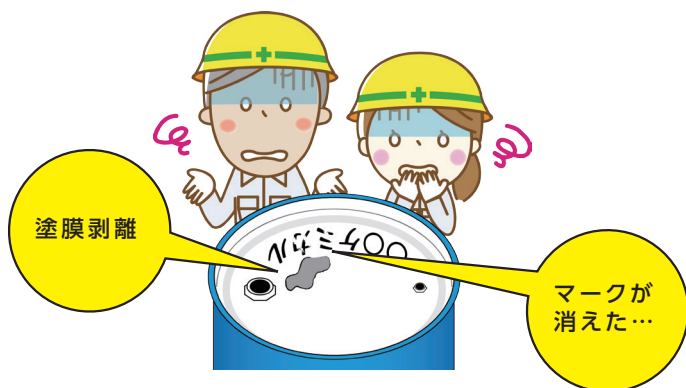


天ぶたのエッジに注意!

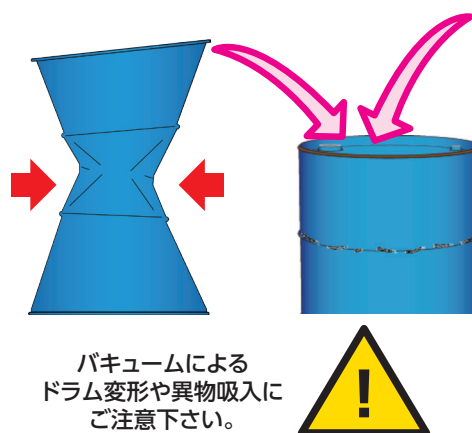


トルクレンチのご使用をお勧めします

- 3 関係法令の規定（消防法、危険物船舶運送及び貯蔵規則、船舶による危険物の運送基準等を定める告示、毒劇物取締法、小型運搬容器の基準等）により、必ずドラム内には内容物に応じた空隙量や収納方法を確保して下さい。関係法令はドラム缶工業会ホームページ(<http://www.jsda.gr.jp/>)からご覧ください。



- 4 充填時は、内容物を天板・天ぶた・口金の上にこぼさないようにして下さい。内容物によっては塗膜を剝離したり、マークが消えたり、発錆することがあります。



- 5 高温の内容物を充填した場合、出来るだけ内容物が常温に下がってからプラグの本締めを行って下さい。鋼製オープンヘッドドラムの口金のない天ぶたを締める場合も、常温に下がってから行って下さい。高温の状態では口金や天ぶたを締めると、バキューム現象によりドラムが変形したり、外気水分を吸入したりすることがあります。特にプラグのガスケットがポリエチレンの場合、軟化変形し緩む場合があります。

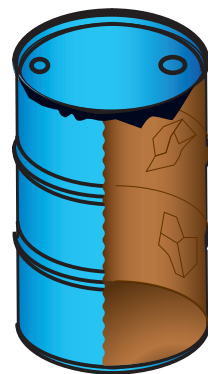
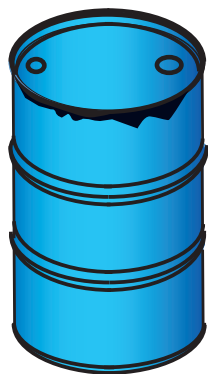
5. 充填後の保管

- 1 充填済のドラムの移動時に手作業で取り扱おうと、怪我や腰痛の発生、転倒による内容物の漏洩の可能性がありますので、十分に注意して下さい。できれば、リフターやフォークリフトをご使用下さい。その場合もチャイムをフォークリフトの爪で突いたり、地面上を引き摺ると、変形や亀裂により内容物が漏れることがありますのでご注意下さい。

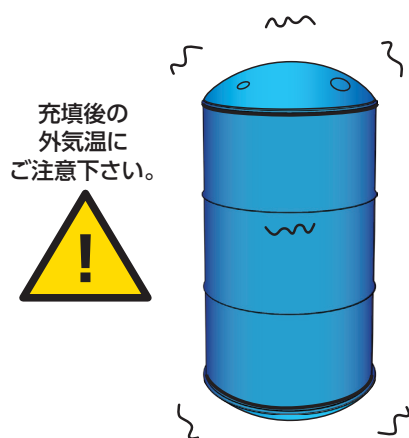
- 2 鋼製タイトヘッドドラムは原則として屋内保管をして下さい。屋外の場合、口金から雨水を吸い込むことがあります。また、発錆することがあります。やむをえず屋外に保管する場合は、天板にドラムキャップを被せるか、地面に水溜りがないところに、天板を下にむけて保管して下さい。鋼製オープンヘッドドラムについては、必ず屋内保管をして下さい。屋外に保管すると、天ぶたガスケット部分より雨水を缶内に吸い込むことがあります。また、発錆することがあります。



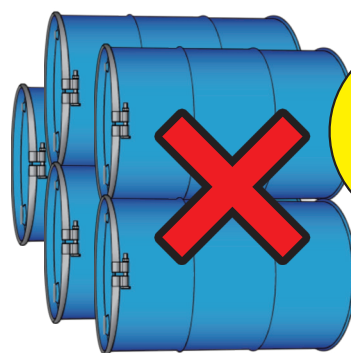
- 3 ドラムが屋外で長期間（およそ3か月）にわたり、水濡れ・乾燥を繰り返されると、外装塗膜が劣化し、膨れや剝離が発生します。また、鉄製キャップシールがある場合、端部の発錆が天板のもらい錆の原因となりますので注意して下さい。特に酸性雨や海岸近くでは注意が必要です。



- 5 低沸点物質を充填した場合、外気温が高温になるとドラム内の圧力が上がり、天地板が膨張することがありますのでご注意ください。



- 6 鋼製オープンヘッドドラムは、充填後俵積（横積）をしないで下さい。胴体及び天ぶたの変形等により内容物が漏洩することがあります。



オープンヘッドドラムの横積みは行わないで!!



- 7 鋼製オープンヘッドドラムは、充填後保管中にバンドの締め付けが緩むことがあります。ボルト式バンドの場合は増し締めを行って下さい。レバー式バンドの場合はレバーが外れないように封印等を行って下さい。

ラチェットレンチでの増締めや、封印ボルトをご使用下さい。



- 8 充填後は早目にご使用下さい。

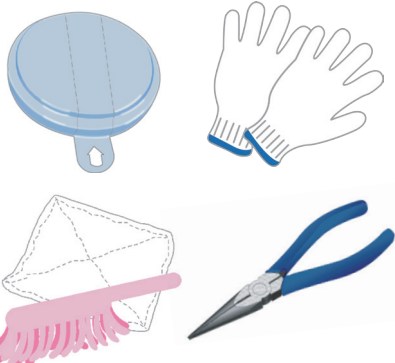
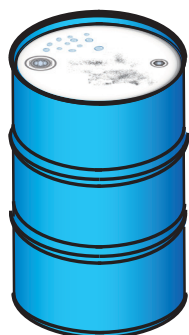


ご理解の上
ご使用下さい。



6. 抜き取り

- 1 金属製のキャップ、キャップシール取り外し時は、保護手袋と適切な治具を使用して下さい。金属端部で手を傷つけるおそれがあります。



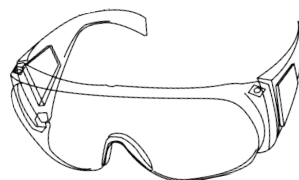
天板の上の埃や水滴を拭き取ってから開栓しましょう。



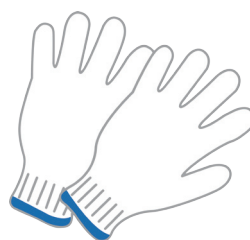
保護手袋着用の上、ラジオペンチ等で取り外して下さい。

- 2 開栓時に天板に埃や水滴があると、口金から内部に吸引されることがありますのでご注意ください。

- 3 プラグ開栓時には、保護具使用の上、内圧による内容物の飛散にご注意下さい。



保護メガネや手袋を装着してから開栓しましょう。



- 4 内容物取り出しの際、ドラムを加熱すると内容物の噴出や、ドラム内面の化成被膜や塗膜を劣化させ、内容物の品質に悪影響を及ぼすことがあります。特に直火は厳禁です。

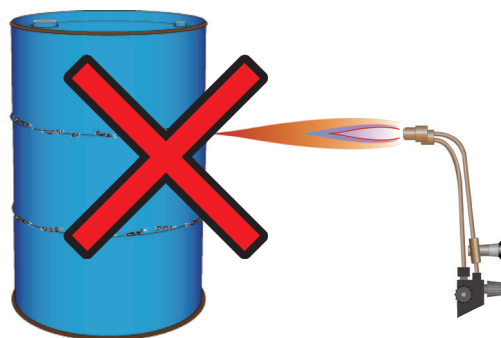
ドラムを絶対加熱しないで下さい!!



危険ですので、使用後のドラムは出来るだけ切断しないで下さい。



- 5 使用済ドラムを加熱したり切断したりしないで下さい。異常内圧上昇で破裂、残渣への引火、内容物の噴出等が発生し危険です。万一必要な場合は、内容物を除去し、良く洗浄した後、ドラムの残留蒸気を不活性ガスで置換し、開栓又は天ぶたを外した状態で行って下さい。



- 6 使用済ドラムを廃棄する時は、内容物を抜いて内部を洗浄後、関係法令(廃棄物処理法)に従い廃棄して下さい。



法令に従い、正しい手順で廃棄頂きますようお願い致します。





ドラム缶工業会

〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町3-2-10 (鉄鋼会館6階)

TEL 03-3669-5141 FAX 03-3669-2969

e-mail : drum.pail@jsda.gr.jp

《正会員》

斎藤ドラム罐工業(株)
JFE コンテナー(株)
(株) ジャパンペール
新邦工業(株)
ダイカン(株)
(株) 東京ドラム罐製作所
東邦シートフレーム(株)
(株) 長尾製缶所
日鉄ドラム(株)
(株) 前田製作所
(株) 山本工作所

《準会員》

森島金属工業(株)

《賛助会員》

エノモト工業(株)
(株) 大和鉄工所
三喜プレス工業(株)
(株) 城内製作所
東邦工板(株)
(株) 水上工作所

URL / <http://www.jsda.gr.jp/>

鋼製ドラムの取扱上の注意 (2019年2月8日発行)

発行人 ドラム缶工業会

*無断での複製、転載はお断り致します。詳細はお問い合わせください。

本誌は環境に配慮した工程で印刷しています。